

「地域づくり協議会」設立までの取り組み例

役 場

- 経費支援
- 担当職員の設置
- アドバイザー派遣 など

準備委員会設立までの準備

- メンバーの選考 ●地域づくり協議会組織体制のイメージづくり
- 地域づくり基本計画（テーマ）【案】の検討・決定
- 勉強会の開催 ●地域内への周知・広報

※ メンバーは、行政区の区長や自治公民館長、各種団体の長などを想定していますが、女性や若者など多様な関係者が加わることも必要です。

第1回設立準備委員会（仮称）

- 準備委員会を立ち上げ、協働による地域づくりに向けた取り組みについて決定し、第1回ワークショップの準備をします。

第1回地域づくりワークショップの開催

- 地域の魅力や課題などを洗い出し、基本計画（テーマ）【案】から重点的な項目を絞ります。

第2・3回設立準備委員会（仮称）

- 第1回ワークショップの整理をし基本とする重要事項を決定します。【第2回】
- 第2回ワークショップ開催の準備をします。【第3回】

第2回地域づくりワークショップの開催

- 基本的な重要事項を基に地域の目標と活動内容を検討します。

第4・5回設立準備委員会（仮称）

- 第2回ワークショップの整理をし、追加検討事項を確認します。【第4回】
- 第3回ワークショップ開催の準備をします。【第5回】

第3回地域づくりワークショップの開催

- 地域で実現可能なこと、そのために必要な要素等を検討し、地域づくり計画（案）を作成します。

第6回設立準備委員会（仮称）

- 第3回ワークショップの整理をし、計画（案）を精査します。

第7回以降設立準備委員会（仮称）

- 準備委員会やワークショップで話し合った内容を、地域づくり計画（仮称）としてまとめます。
- 地域づくり計画（仮称）を実現していくために必要な事項（組織体制・活動分野・事業計画など）を検討あるいは決定します。

ワークショップとは・・・

さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見をまとめ上げていく場です。（対話型）

※ ワークショップで話し合った内容は、準備委員会で整理した後、地域の皆さんに随時お知らせします。

地域づくり協議会（仮称）の設立

- 事業計画や予算、規約などを決定します。

町民協働によるまちづくり

- 地域づくり計画（仮称）にそって「町民協働によるまちづくり」を進めていきます。

白石町協働による地域づくり検討委員会
（事務局 白石町 企画財政課 白石創生推進係）

〒849-1192 佐賀県杵島郡白石町大字福田1247番地1

TEL 0952-84-7112 FAX 0952-84-6611

Email kikakuzaisei@town.shiroishi.lg.jp

URL https://www.town.shiroishi.lg.jp/chousei_machi/seisaku/_1701.html



町民協働によるまちづくり

参加と協働で築く町民主体のまち



平成31年1月

「町民協働」とはということ？

「協働」とは、簡単に言うと「同じ目的のために、協力して働くこと」です。世の中の社会情勢や、町民の皆さんのライフスタイルやニーズが変化していく中、役場だけでなく、皆さんや、各地域における様々な団体等が共に考え、共に活動していただくことです。

どうして「町民協働によるまちづくり」が必要なの？

【全国的な背景】

- 地域への連帯感・意識の希薄化
- 住民ニーズの多様化
- 少子高齢化・人口減少・混住化
- 国・地方の厳しい財政状況



【一方白石町では…】 町民アンケート結果や協働による地域づくり検討委員会の意見から

- 若い人達の地域活動等への関心度が低く、参加も少ない。
- 少子高齢化により、地域の担い手がいらない、活動を手伝う人がいない。
- 活動に参加する時間が確保できない。

→ 町民の協働意識を高める必要がある。

- 高齢者福祉への対応や、子どもの居場所づくり、子育て支援活動のサポートが必要である。

→ 行政区の単位を越えた地域(小学校区等)での活動を行えるネットワークづくりが必要である。

- (地元定着のため) 郷土への愛着をはぐくむ必要がある。

→ 地域の伝統的な活動等を継続し、新しいニーズの把握や対応(イベント等)が必要である。

- 地域によって活動の活発さに差がある。
- 地域や各団体の活動内容がよくわからない。

→ 地域内での組織及び団体の連携を強化すると同時に、情報を積極的に発信する必要がある。

たとえば…こういう事です！

(一般的な活動事例)



① 高齢者や子どもの見守り活動に、多くの団体が連携することで「見守り活動」が活発になります。



② 地域のイベントを、関係する団体や個人が連携することで、参加者や運営スタッフが増加します。



③ 生産組合や農地・水、その他の団体が実施する清掃活動等に一般の方が参加することで、地域の環境保全活動の意味を理解する住民や活動が広がります。

目指す将来像

小学校区単位等の地域で、行政区、自治公民館、消防団、PTA、老人クラブ、生産組合など各団体が「【仮称】地域づくり協議会」という新しいネットワークで連携し、地域課題の解決や地域の強みを生かした活性化につながる新たな取り組みを行い「参加と協働で築く町民主体のまち」を目指します。

地域づくり協議会のイメージ

地域課題解決のためのネットワークづくり

単位：概ね小学校区

